

# 11. 京都産業大学

テーマ	ファシリテーションの DX ～作りながら考えるファシリテーションの可能性～	
発表代表者	澤 宏司: 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室(F工房) 嘱託職員	
連名発表者	大島 和美: 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室(F工房) 特定専門員 安達 晃輝: 京都産業大学 情報理工学部 3 年生 今村 湧亮: 京都産業大学 法学部 3 年生 貝増 祐斗: 京都産業大学 経営学部 2 年生 川上 雄大: 京都産業大学 理学部 2 年生 北浦 慶人: 京都産業大学 文化学部 2 年生 金城 昂汰: 京都産業大学 情報理工学部 1 年生 神谷 拓海: 京都産業大学 経済学部 4 年生 重野 聖空: 京都産業大学 経済学部 4 年生 田丸 遼人: 京都産業大学 情報理工学部 3 年生 櫛岡 翼: 京都産業大学 文化学部 2 年生 山下 達也: 京都産業大学 情報理工学部 2 年生 矢尾 衣織: 京都産業大学 文化学部 2 年生	
キーワード	ファシリテーション	学生ファシリテータ
	授業支援	DX
発表の概要	京都産業大学 教育支援研究開発センター F 工房は、ファシリテーションを全学に広げるための拠点である。その F 工房の「学生ファシリテータ(学ファシ)」は、文・理の多様な学部から集まった、学生の主体的な学びを支援する学生ボランティアスタッフである。学ファシのチーム「FCDX」は、ファシリテーションにおける DX の可能性を模索すべく、2025 年夏から漸次的に組織された。現在は、リアルタイムの音声・画像認識による対話支援、近距離無線通信による入退室支援など、3～4 のプロジェクトが進行している。FCDX は技術開発のみが目標ではなく、その開発過程でのファシリテーション自体の洞察、また技術やプログラミングになじみが少ない学生のプログラミングへの啓発など、多様な波及効果が期待される。本報告では現在進行中のプロジェクトの状況を、その課題とともに具体的に示す。	